

阿蘇特産『あか牛』について

世界に名を誇る、熊本県阿蘇山。このカルデラのほぼ中央部で私はあか牛（褐毛和種）を150頭程肥育している。

元来、役牛として朝鮮半島から導入されたあか牛であったが、その後品種改良が行われ肉用種としての現在のあか牛がある。一般に和牛と呼ばれる黒毛和種に比べると、いわゆるサシ（脂肪交雑）は劣るものの阿蘇の大草原の草を食み、豊かな自然の中で育ってきた牛だけにその食味は絶品である。又、高い知名度を持つ高級和牛に比べサシの少ない分、量的にも多く食べられ低脂肪でヘルシーだ。

こんなあか牛も近年、子牛生産者である繁殖農家が高齢化し、その数も激減しつつある。加えて、若い大規模生産者は安価なあか牛より、高値取引される黒毛和種の方が経営的に有利という事で、子牛市場が開催される熊本県家畜市場でもあか牛の上場頭数は月に400頭を下回るまでに陥っている。

日本人の食生活が見直されている今、安心安全を看板に持つあか牛が経済的理由から、少なくなるのは寂しい。放牧利用による低コストを考えれば、経営的にも利益性は高いものがあると研究機関でも結果が出ている。

国内はもとより、世界各国から多くの観光者が訪れ、この大自然を眺めながら、阿蘇のコシヒカリの白いおにぎりに、阿蘇高菜漬、そしてあか牛の焼肉ときたら、これはもう最高の逸品だ。私は阿蘇に生まれ育った事を大変嬉しく思い、また多くの人にお越しいただきたい。

（熊本県阿蘇市西町 肉牛生産者 家入正雄）

（E-mail : aso3akausi@docomo.ne.jp）

農業体験受け入れ

ここ数年、JAいわて花巻を拠点として、主に中学生の農業体験の受け入れが盛んになっている。わが家でも、今年は4月末から6月初めまでの間毎週1泊2日の日程で、宮城、北海道、東京、千葉の計5校の生徒を受け入れた。農作業としては、その時期に合わせて「枝豆の種まきや定植」「水稻苗運び」「田植え補助」「苗箱洗いや片づけ」「直売所向け商品の袋詰め」などを手伝って貰った。

生徒さん達は最初、緊張と不安の表情なのだが、帰るころには一様に明るい表情を取り戻す。帰りの会場は賑やか場となるが、時間とともにそちらこちらで受け入れた農家と生徒さんとの間の別れを惜しむ姿で溢れかえるようになる。

あとから寄せられた生徒さんの手紙の中で、「自分は一人っ子なので、小さい子（我が家の孫たち）と遊ぶのが楽しかった。子供の頃に戻った気がした」「ご飯がとてもおいしかった」「農業って種を播いたり植えたりするばかりではなく、いろんな作業があって、みんな必要な作業なのだと思った」「最初は大変だったけれど、慣れてきたら楽しくなった」「また花巻に行ってみたい」と感想をくれた。また、「空気がおいしい。星がきれいだ」と言っていた東京・目黒の都会っ子の生徒さんたちが、帰り際に「絶対忘れないで下さい」と握手してくれた。

いつも元気をいただいているのは私たちの方だし、生徒さんたちを通して自分たちの農業や環境を見直すことにもなる。「みんないい大人になってね」と願わずにられない。

（岩手県花巻市 照井農場 照井富貴子）